

ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第23号

平成15年11月25日発行

琉球国金丸世主書状の印
1471年(成化7)



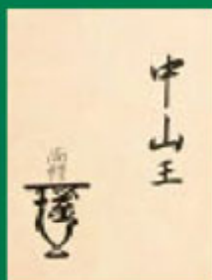
琉球中山王書状の印
1597年(万暦25)



琉球国司尚豊書状の花押
1639年(崇禎12・寛永16)



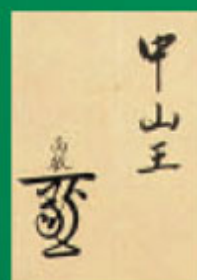
琉球国王尚穆書状の花押
1763年(乾隆28・宝暦13)



琉球三司官書状の印
1578年(万暦6)



琉球国王尚寧書状の花押
1615年代



琉球国王尚敬書状の花押
1716年(康熙55・正徳6)

特集

島津家文書

沖縄の歴史には、1429年尚巴志の三山統一から1879年の廃藩置県まで450年史料の収集事業として、東京大学史料編纂所の「島津家文書」の中から、琉球関係史料を選別
今回の撮影においては、可能な限り、文書の概観や書状の表装の様子、包紙や封紙、封の種
得られるよう考慮しました。今回撮影した琉球関係史料は、年月日の確認可能な史料からする
れ日本の幕藩体制下へ組みこまれていった琉球の歴史が窺える貴重な史料群です。

今回収集した島津家文書の中の琉球関係史料

収集点数:475点(カラーマイクロ撮影で、2,682コマ)



島津家文書(琉球関係史料) 全14冊(複製)
(資料コード0000033629~000003642)

原史料は、手鑑や卷子、冊子、書状、絵図等さまざまな形態をしています。単独の文書もありますが、大方は手鑑や卷子に複数の文書が編められ、表装されています。今回は、その中から琉球関係史料を選別し、カラーマイクロで撮影しました。収集した文書を原史料の形態で見ると、その内訳は下記の表①のとおりです。

また、今回撮影した文書の作製年代は400年の幅がありますが、大まかな年代別は表②のとおりです。

手鑑仕立

一般的に名筆の鑑賞や筆者の鑑定のため、和歌や漢詩等の卷子本や冊子本から、その一部を切り取って収集し、帖に編集したもの。3件9点あり、とても豪華な装丁になっている。



「御文書」
(資料コード 0000033629)

表① 元の文書の形態別収集点数

手鑑(てがみ)	3件	9点
卷子(かんず)	84件	206点
冊子	48件	48点
書状・その他	208件	208点
(内 起請文 100点)		
絵図	4件	4点
合計	347件	475点

卷子仕立

料紙を何枚も継いだ継紙に見返しと奥付をつけ、軸に巻いた巻物をいう。

今回撮影した史料では、もともと1点の史料を1点の卷子に表装してあるのではなく、1件の卷子に数点の文書(形態としては、縦紙や折紙や切紙等)をまとめて表装してある。その中から、琉球関係史料のみを撮影した。

「御文書 三拾通六之巻」
(資料コード0000033629)

(琉球関係史料)

に及ぶ「琉球王国時代」があります。当館は、琉球王国関係しカラーマイクロ撮影により複製本を作製しました。

類等も把握できるように撮影し、原史料の姿や状態等の情報もと約400年の幅があり、独立王国であった琉球から、島津の管理下におか



「国統新亀鑑」
(資料コード0000033629)



島津家文書とは

島津家文書は、旧薩摩藩主島津家代々に伝わる文書で、総点数は約17,000点。

時代は平安時代から江戸時代に及ぶ武家文書で、平成14年6月26日に国宝に指定されました。島津家当主宛の文書の原本をはじめ、重要文書の案文や島津家当主の書状案、島津家当主一族間の往復文書や系図・家譜、絵図等が黒漆箱や白木箱、長持、小箱、筆筒等に収められ、東京大学史料編纂所に収蔵されています。



島津氏は、薩摩支配の全期間にわたり琉球国王以下摂政・三司官から起請文をとり薩摩支配に服する旨の誓約を行わせた。これは、琉球国王最初の起請文。

「琉球中山王尚寧から薩摩藩主島津家久宛て差し出された起請文(きしょうもん)」1611年(慶長16)
(資料コード0000033630)

絵図

「那覇異国船漂着場図」等4点を撮影した。何れも描かれた年代は不詳であるが、異国船漂着の絵図であり、1700年代から1800年代頃、外国船が頻りに来島したことを示す証しであると思われる。

「宮古島漂着異国船絵図」
(資料コード0000033637)



冊子

冊子は和綴りで48件あり、「琉球国諸島高辻帳」や、縦19.5×横53.4cmの横帳「琉球米聘使参府次第覧帳」は、横長で分厚い冊子もある。

「琉球国諸島高辻帳」1717年(享保2)
(資料コード 0000033631)



表②
文書の年代別収集点数 ()内は年月日未詳

1400年代	4点	(3点)
1500年代	42点	(7点)
1600年代	181点	(94点)
1700年代	160点	(17点)
1800年代	88点	(7点)
合計	475点	(計 128点)

企画展

「公文書館収蔵資料に見る沖縄の乗りもの今昔」

8月8日(金)▶10月12日(日)

今年8月の沖縄都市モノレールの開通を機に、8月8日から10月12日までの間、企画展「公文書館収蔵資料に見る沖縄の乗りもの今昔」を開催しました。当館が所蔵している交通関係資料を中心に「乗りもの」に関する資料を選び、本県における交通の変遷過程を写真入り年表等で紹介しました。夏休み期間中でもあり、親子連れや県内外の方々が多く訪れ、戦前沖縄に存在した軽便鉄道の写真、復帰後の交通方法変更に関する資料の前で話題に花が咲きました。

展示室に流れる「軽便鉄道節」の歌詞の解説について照会があったり、戦前の沖縄県鉄道雇いであった奥原宗廣氏の「臨時乗車証」が展示会開催中に寄贈されるなど、観覧の方から多くの反応がありました。



「臨時乗車証」寄贈者：奥原宗廣氏(中央)

移動展 9月4日(木)▶9月15日(月)

平成15年9月4日から9月15日までの間、宮古郡多良間村で移動展「沖縄県公文書館収蔵資料に見る多良間」を開催しました。今年は多良間村制発足90周年の記念する年であり、開催期間中、国の重要文化財に指定された「八月踊り」の行事も行われ、島内外から多くの見学者が訪れました。

展示資料は昭和19年に多良間村を訪れた河村只雄氏が撮影した写真や日記及び琉球政府文書、USCAR文書、ランバート高等弁務官が多良間村を訪れた写真など116点の資料を展示しました。当時を懐かしむ方々から資料に関する情報等が多く寄せられました。



歴史講演会 7月11日(金) 午後6時30分～8時

ペリー来沖150周年を記念して照屋善彦琉球大学名誉教授に「ペリー提督と琉球王国」と題して講演していただきました。ペリーは日本に開港を求めため、1853年に琉球を訪れ、翌年7月11日に琉米修好条約を締結しました。

沖縄と米国の歴史の始まりの日に、ペリー来航の前後の流れをわかりやすく解説して下さり、世界史的視野から見た米国と沖縄の歴史を考えさせられた講演でした。



照屋善彦氏



ゆたかはじめ氏

歴史講演会・映写会 平成15年10月1日(水)

企画展「公文書館収蔵資料に見る沖縄の乗りもの今昔」のテーマに沿った講演会「沖縄の鉄道」を開催しました。講師のゆたかはじめ氏(本名:石田穰一)はエッセイストで琉球の文化、芸能等に詳しく、日本全国の私鉄を含む鉄道の全線を完乗した鉄道ファンです。

講演では、「軽便鉄道」から「モノレール」に至る沖縄の交通の歴史背景を織り交ぜつつ、庶民に親しまれた鉄道や電車に関する戦前の珍しい「鉄道唱歌」や「西武門節」の歌を会場に流し、歌詞に表れた乗り物と人々に関わり等を紹介して頂きました。

また、講演に先立ち氏が自主制作した貴重な映像『沖縄の鉄道物語』と『南の島を汽車が行く』の上映も行いました。

■ 映写会 午後5時30分
『沖縄の鉄道物語』
『南の島を汽車が行く』

■ 講演会 午後6時30分
『沖縄の鉄道』
講師:ゆたかはじめ氏(エッセイスト)

歴史講座 平成15年8月2日(土)～8月16日(土) 午後2時～3時30分

「戦前の県政 沖縄の県令・県知事たち」と題し、歴史講座を開催しました。



第1回講座 8月2日

「初代県令 鍋島直彬とその時代」

講師 金城正篤氏(沖縄大学教授)



第2回講座 8月9日

「第2代県令 上杉茂憲とその時代」

講師 秋山勝氏(沖縄大学非常勤講師)



第3回講座 8月16日

「第8代県知事 奈良原繁とその時代」

講師 田里修氏(沖縄大学教授)

戦前の県令、県知事や県政についての講座は今回が初めてでしたが、皆さんの関心の高さがうかがえました。

※8/23(土)に予定していました「第22代県知事 井野次郎とその時代」は講師の御都合で延期いたしました。
今後の開催については追ってお知らせいたします

資料保存講習会 8月14日(木) 午後2時～5時

平成15年度の資料保存講習会は、資料を保管するための容器づくり(「保存箱とエンキャプレーション」)をテーマに、開催しました。作業を終えた参加者の皆さんから、気軽な作業で資料を保存できることや、職場や家庭で活用したいという声がたくさん寄せられました。



講師 大瀧ゆかり(修復士)

知ってると便利

公文書館では、文書や刊行物等の紙資料の他にも沖縄関係の映像資料の収集・保存に努めています。

収集した映像資料は、閲覧棟二階のミニシアター又はビデオコーナーでご覧になれます。また、公文書館が主催した講演・講座等のビデオもありますので、活用してください。

今回は、平成一四年度以降に新たに公開された映像資料の中から、主な資料を紹介します。詳しくは、閲覧室・カウンターまでお尋ね下さい。

(1)「沖 縄」1940 年

東京日日新聞社製作。白黒、14分。沖縄の名所、名物を江川宇礼雄の解説で紹介しています。戦前の那覇や首里の街並、今はなき軽便鉄道の映像を見ることができます。

(資料コード 0000015498)



(2)「海の民 沖縄島物語」1942 年

東亜発声映画社製作。白黒、28分。戦意高揚を目的に作成されたフィルムと思われます。爬龍船競争や糸満の追い込み漁、県立二高女の生徒達のコーラスが紹介されています。

(資料コード 0000015507)



◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 平成 14 年以降に公開された主な映像資料 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

制作年	資料タイトル	備 考
戦前	囃われた空手	粕谷真敬氏寄贈
1940	沖縄	東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵
1942	海の民 沖縄島物語	東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵
1945	降伏文書調印式（嘉手納）	米陸軍航空隊
1961	TV ウィークリー 島内産愛用週間にちなんで	米国民政府広報局
1973	若夏の躍動 復帰記念沖縄特別国体の記録	沖縄県

日米関係に関する機密文書が米国立公文書館から発掘される度に話題になるのが日米における記録管理の違い。アメリカでは、稟議書や議事録だけでなく、政策決定過程をあらわす手書きのメモや草稿、電子メールなども「公文書」としてきちんと残すよう法律で定められています。一方、日本では公

たのだろう。」私が記録管理に関心を持つようになったのは、アメリカの記録管理の凄まじさに触れてから。普段手にするのはアメリカ統治時代の古い公文書ですが、その中から高等弁務官と琉球政府主席との会談や琉球政府高官とのやり取りなど当時の状況を生々しく伝える議事録やメモが出てきて、今は亡き先人の力強い生きざまを目の前で目撃しているような気がします。これらアメリカ側の公文書を見ながら、地元沖縄ではアメリカとの関わりをどう記録し、残してきたのだろうか、また、将来「歴史」となるであろう現在の行政の営みは、日々どのように記録されているのだろうか、と思いは巡るのです。

アメリカ駐在員連載コラム アメリカ通信 No.12

「記録を残す」

公文書専門員 仲本和彦

「県が一九九五年に政府から求められていた未契約軍用地強制使用手続きの代理署名を拒否する決定をした際、執行部内でのような記録が残されたのだらう。」

文書として保管されるのは、主に稟議書やその付属資料。メモや草稿などは、たとえそこに重要な政策決定の鍵が隠れていたとしても、公文書としてファイルされることはまれです。この記録管理の違いこそが、日米交渉の内実をアメリカ側の公文書に頼らざるを得ないという状況を生み出す第一の要因となっているのです。

沖縄はその地理的・政治的環境から他府県とは異なる歴史を歩んできました。特に一九九〇年代半ばからは「安保」との関わりで沖縄県民の意思が政府の方針に大きく影響を及ぼすようになりました。この状況は、五十年後、百年後から眺めると、きつと、沖縄史の大きな転換期として映ることでしょう。このような状況の中で、我々は後世の人々に対して、「何」を行なったか、だけではなく、「何故」行なったのか、「どのように」行なったかの記録をきちんと残す義務があります。先人のとった行為に影響を受けるのが後世に生きる人々の宿命であり、先人はそれに対してきちんと責任を負う覚悟で臨まなければならぬと思うのです。

沖縄県の政策決定過程を映し出す手書きのメモ、草稿、電子メールなどをどう公文書として残していくか……。アメリカ政府の公文書を眺めながら、最近、そんなことを考えています。



利用者の声

公文書館収蔵資料の利用と普及を促進するため、展示会や講演・講座等毎年いろいろな催しを開催しています。今回、会場に寄せられたアンケートの中から利用者の声をいくつか紹介します。

企画展 「沖縄の乗りもの今昔」 アンケートより

モノールの開業一番列車乗車のために来県しました。モノールや旧・軽便鉄道以外にも、自動車・バス・タクシーや海路、空路について知識を深めることができました。

(東京都 40代 会社員 男性)

母と一緒に来館しました。安里の母の実家が鮮明に写っている写真を見て感激しました。初めての公文書館ですが、これからも身近な話題があるようにお願いします。

(南風原町 30代 女性)

今日「沖縄の乗りもの」を見にきてよかったと思います。私はまだ4年生だけどわかりやすく乗りもののことが説明してあったので、昔のことを知ってとてもうれしいです。

(首里 10代 女性)

昔は汽車や電車も走っていたんだということを知り、いいなと思った。今、モノールが出来たけど那覇市内だけなので市外の人にとってはまだ不便です。色々な乗りものがあることが分かって楽しかったです。

(南風原町 20代 アルバイト生 女性)

当時と現在の様子を写真などで比べることができてよい。「7.30」(ナナサンマル)の資料がもっと見たかった。

(兵庫県 20代 学生 男性)

講演会 「沖縄の鉄道」 アンケートより

世界の動きとその中での日本・琉球のおかれた状況、総合的に話しがすすんで面白かったです。テーマも興味のもてるものでした。

(浦添市 20代)

戦前私の家は軽便鉄道の那覇駅の裏の石炭置き場の近くにありましたので、戦前の我が家を思い出して懐旧の念にかられました。有り難うございました。

(那覇市 50代)

ペリー提督と琉球王国の関係だけではなく、西欧諸国・その時代の世界情勢をふまえて説明してくれたのが良かった。また、当時の琉球王国の状況がよくわかった。

(那覇市 20代)

本土出身者でありながら沖縄の鉄道に詳しくとても興味を持って拝聴しました。沖縄の人はありし日の軽便についてもっと関心をもってもらいたいと思いました。

(西原町 70代)

非常に興味深かった。時間はかかるとはいますが、沖縄に軌道交通は必要だと思います。

(宜野湾市 20代)

短い時間でしたが、ポイントを絞って講演してくださったので、すんなり入っていくことができました。内容も興味深く楽しかったです。当時の国際法の無主地(?)の概念とからめ、背景も理解しやすかったと思います。

(宜野湾市 20代)

とても面白かった。昔のカービンの話はまた聞きたい。

(豊見城市 10代)

後半に放映されたビデオは、沖縄の将来のイメージを具体的に描き立てられて楽しかった。路面電車の件、大賛成です。もっとたくさんの広報を期待します。グローバルな視点での沖縄の話、とても楽しく聞かせていただきました。ありがとうございました。

(那覇市 50代)

琉球処分は沖縄県民に何をもたらしたか。自分なりに理解し把握できたような気がする。歴史の流れが人民をどのように変えていったか、今の世から考えてみたい。

(60代)

限られた時間・史料の中で、鍋島県令の施政・人物像を説明されたのは学ぶ点が多かった。地方への政策をもっと具体的にまた社会状況を説明していただければ更によかったのですが...

(20代)

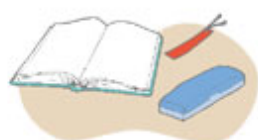
沖縄の近現代史の根本にあたる部分の話を聞くことができてよかった。

(20代 学生)

講演会 「ペリー提督と琉球王国」 アンケートより

講座 「戦前の県政 沖縄の県令・県知事たち」 アンケートより





Q

宮古でハンセン病関係のイベントを企画していますが、これに関する資料はありますか。
また関連資料を借りることはできますか。

A

琉球政府文書、USCAR (琉球列島米国民政府) 文書の中にハンセン病に関連する資料がいくつかあり、写真資料もあります。ただし、これらは個人のプライバシーに関する情報が含まれる場合があり、全てが公開できるものではないかもしれませんので担当職員までお問い合わせ下さい。また、館外貸出は原則として行っておりませんが、資料を複写して展示することは可能です。

Q

沖縄からのハワイ移民や1950年代から70年代頃の琉布親善プログラムに関するUSCAR資料はありますか。

A

USCAR経済局文書に移民関係資料が数十件ありますが、これらの大半は南米及び西表島への移民、移住が主であるため、USCAR資料全体から主題別コード(SC=サブジェクトコード)で移民関係資料を検索してみてください。

(※ SC480=移民 SC490=訪問・使節・使節団 サブジェクトコードの詳細及び入力方法については閲覧担当までお問い合わせ下さい)

Q

ペリーと共に来琉したハイネが金武の様子を描いた版画を以前見たことがあります、公文書館でこれを所蔵していますか。

A

岸秋正文庫の中に『琉球でのパーティー』と題する版画があります。以前にご覧になったものと同一のものかの確認のため来館されることをおすすめします。

平成15年度 資料保存講演会 のお知らせ

テーマ

「今後の記録資料の虫菌類対策について」

従来の燻蒸剤・臭化メチルの全廃にあたり、燻蒸処理に代わる虫菌類対策について最新の情報を含めて具体的にお話しをさせていただきます。

日時 平成16年1月22日(木)午後3時～5時

講師 木川 りか 氏 (東京文化財研究所主任研究官)

利 用 案 内

● 開館時間

09:00～17:00

(閲覧申請は16:30まで)

● 交 通

【路線バス】 新川バス停下車 徒歩1分

・那覇交通(株) 市内線1番

・東陽バス(株) 91番・96番

【駐車場】 50台(大型バス用有り)

● 入館無料

● 開館日

(赤色の日は休館日です)

2003年 11月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

2003年 12月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2004年 1月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

※年末年始休館 12/28(日)～2004 1/4(日)

沖縄県公文書館だより ARCHIVES 第23号

発行日 平成15年11月25日

発行 沖縄県公文書館

編集 財団法人沖縄県文化振興会 公文書管理部

〒901-1105 沖縄県南風原町新川148-3

TEL 098(888)3875 FAX 098(888)3879

URL <http://www.archives.pref.okinawa.jp>

表紙の 説 明

島津家文書を概観すると文書類において1609年の島津の琉球侵攻を境に違いがみられる。1609年以前の文書には「首里之印」や「三司官印」の朱印が押印されているのに対し、侵攻以後は印章に代わり花押を使用している。これは島津の附庸国というあつかいとして、幕藩体制下に組み込まれていったことと関係していると思われる。